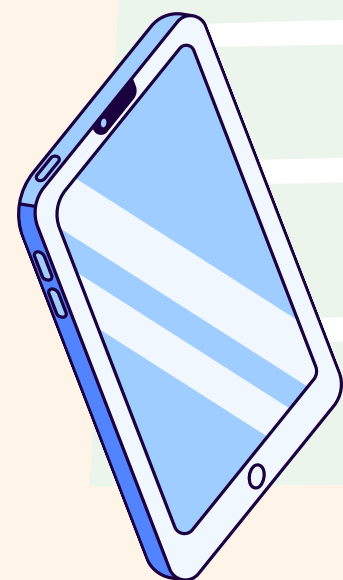




家庭における

# デジタルドリル 活用の手引き

大分市教育センター



## 家庭でのデジタルドリル活用事例

### (1) 授業の復習・予習に活用

- 授業で扱った内容に関する問題を解く
- 次の授業時間で扱う内容に関する問題に挑戦する
- 実技系の動画コンテンツを見て、練習をする



### (2) 苦手な教科の基礎固めのために、過去の学年内容の復習教材として活用

- 教員が個別に指示した過去学年の問題を解く
- 自主学習として、過去の問題を解く

※ (2) については、児童生徒それぞれ異なる教材が必要だが、デジタルドリルであれば、個に応じた対応が容易となる

## 持ち帰りの基本モデル

### a. 週末持ち帰り

- 平日は、今までと同じ宿題
- 週末を「タブレットの日」とし、自分に必要な課題に取り組む

### b. 定期持ち帰り

- 週に1回～毎日、端末を持ち帰り、予習や復習に取り組む

### c. 欠席対応（出席停止等）

- 学校で実施した問題や、取り組んでほしいデジタルドリルの問題番号を学校から連絡
- 児童生徒は問題に取り組む

## 端末を持ち帰る際の留意点

### (1) 荷物が過重にならないような配慮について

- ・「教科書等の必要な部分を撮影し、教科書は置いて帰る」などの工夫が考えられる



### (2) 家庭のネットワークへの接続について

- ・大分市教育センターが準備する「ネットワークへの接続方法に関する資料」を家庭に配付する



※インターネット環境がない家庭には、各学校で常時開放しているモバイルルータを貸与することも可能

## 《学校》

### 課題の提示

#### ◇授業後

教科の担当が課題を提示

#### ◇帰りの会

学級担任が課題を提示

## 《家庭》

### 家庭学習

※日によって  
内容は異なる

#### 紙の課題

- ◇漢字練習、  
新研究等  
紙媒体の課題  
に取り組む



※紙課題だけの日、デジタルドリルだけの日もある。

#### デジタルドリル

家庭用ネットワ  
ークに接続する

- ◇教員が提示し  
た問題を解く
- ◇苦手科目の  
前学年の  
ドリル等を  
解く

## 《学校》

### 短時間学習

#### ◇朝学習・帯時間等

教員が提示した課題や  
苦手科目の問題に取り組む

# 持ち帰り（1）学校での準備

## ①課題を提示する

- 教員がデジタルドリルの問題を配信する
- 家庭で取り組むデジタルドリルの問題名かドリル番号を児童生徒に伝える

※いずれかの方法で課題を提示する

## ！活用のポイント

- 学習内容の定着を図るためには、家庭学習を「デジタルドリルのみ」にするのではなく、教科書の問題や、紙のドリルも継続することが大事

※デジタルドリルは、知識・技能の習得や定着のための補助的役割を担う

## 《学校》

### 課題の提示

#### ◇授業後

教科の担当が課題を提示

#### ◇帰りの会

学級担任が課題を提示

## 《家庭》

### 家庭学習

※日によって  
内容は異なる

#### 紙の課題

- ◇漢字練習、新研究等紙媒体の課題に取り組む



※紙課題だけの日、デジタルドリルだけの日もある。

#### デジタルドリル

家庭用ネットワークに接続する

- ◇教員が提示した問題を解く
- ◇苦手科目の前学年のドリル等を解く

# 持ち帰り（2）家庭での学習

## ！活用のポイント

「紙の課題」と「デジタルドリル」の両方を毎日出す必要はありません。デジタルドリルも、「課題の一つ」と考え、適切な量を出すようにします。

※育成クラブに通う児童は、クラブで紙の課題を行い、家でデジタルドリルに取り組む…などの活用が考えられます。

## ◇デジタルドリルに取り組む場合

### ①タブレットを家のネットワークに接続する

大分市教育センターが配付する説明書を見ながら接続する

※設定が必要なのは最初の一度のみ

### ②デジタルドリルの問題を解く

- ・教員が提示した問題を解く
- ・苦手な教科の過去の問題を解く（復習）
- ・次の時間の問題にチャレンジする（予習）
- ・動画を見て、実技の練習をする（予習）

## 《学校》

### 短時間学習

#### ◇朝学習・帯時間等

教員が提示した課題や苦手科目の問題に取り組む

# 持ち帰り（3）登校後の学習

## 《学校》

### 課題の提示

#### ◇授業後

教科の担当が課題を提示

#### ◇帰りの会

学級担任が課題を提示

## 《家庭》

### 家庭学習

※日によって  
内容は異なる

#### 紙の課題

- ◇漢字練習、新研究等紙媒体の課題に取り組む



#### デジタルドリル

家庭用ネットワークに接続する

- ◇教員が提示した問題を解く
- ◇苦手科目の前学年のドリル等を解く

※紙課題だけの日、デジタルドリルだけの日もある。

## 《学校》

### 短時間学習

#### ◇朝学習・帯時間等

教員が提示した課題や苦手科目の問題に取り組む

## ①短時間学習に取り組む

朝学習・帯時間等を使って、予習や復習に取り組む

## ！活用のポイント

デジタルドリルは、学習履歴が自動的に記録され、教員が児童生徒の学習進度や正答率を確認することができる

※評価の一つとして活用することも考えられる

教員が定期的に進度等を確認し、保護者とも共有しながら、児童生徒を認める声掛けをすることが大事

DIGITAL-DRILL



家庭と連携し、活用を進める



教育委員会



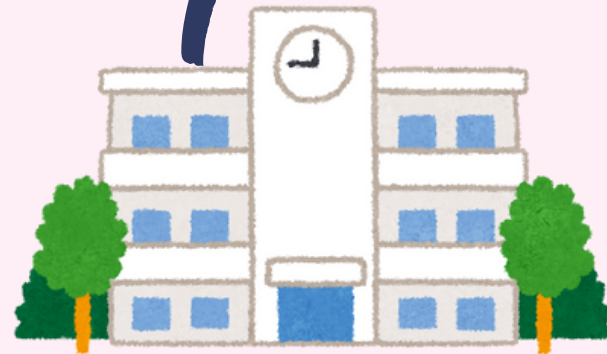
- ・ 学校での実践例の収集、紹介
- ・ 活用率等を集約し、効果的な活用方法を提案

デジタルドリル

クラウド上に学習履歴等  
が記録される

励ましの声掛け

個に応じた  
課題の配信



学校（先生）

- ・ 児童生徒の実態に応じた問題の提示
- ・ 先生用iPadで学習進度や正答率を確認

励ましの声掛け

頑張りを認める



家庭（保護者）

- ・ 児童生徒のiPadを見て学習進度等を確認
- ・ 解説動画等を一緒に見て、学習内容を把握



連携

## 保護者と共有したいこと



### ◇デジタルドリルについて

- ・「家庭学習の習慣化」「基礎学力の定着」が期待できること



### ◇紙の課題について

- ・全てをデジタルで行うのではなく、漢字ドリル等、紙の課題にも継続して取り組むことが大事であること

### ◇保護者の関わり

- ・〇つけは不要になるが、学習内容等に関心を持ち、親子で対話をすることが大事であること



## 共有する場を設定する



### ◇活用している場面を見せる

授業参観の際、導入や終末の場面でデジタルドリルを使い、保護者に活用場面を見てもらう

### ◇活用のねらいを説明する

授業後の懇談会で、児童生徒が使用したデジタルドリルを触ってもらいながら、家庭での活用について説明する

手引きP9を参考に、デジタルドリルの内容や保護者の関わり的重要性について伝えていく

